

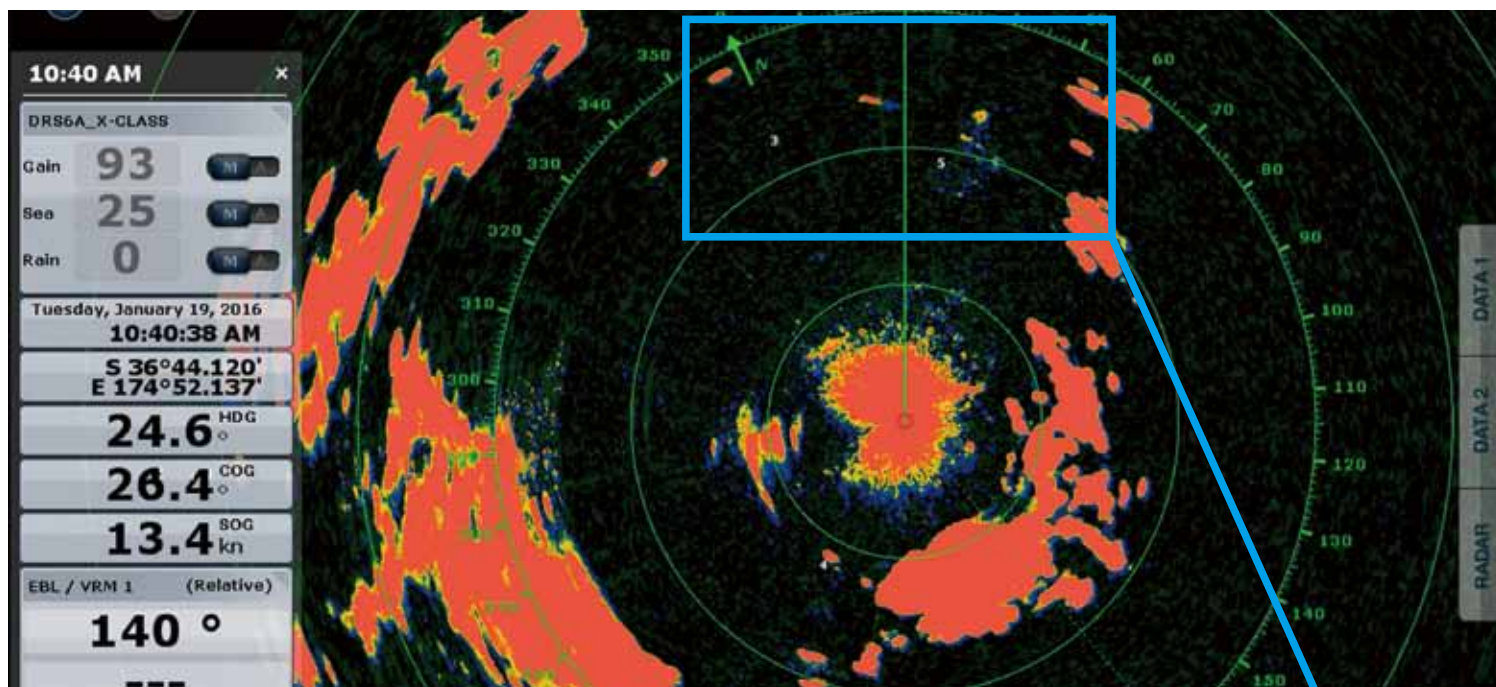
BIRD RADAR

鳥山も見つけられるレーダー、FURUNO「バードレーダー」誕生!



大型魚に追われ、海面に浮上する小魚の群れ。空には沸き起こるナブラを待つ海鳥たち。そしてひとたびナブラが起これば、一斉に群がって激しくダイブする。漁船の装備としてプロの実戦の場で鍛えられてきたフルノの海鳥探知レーダーが、このほどプレジャーボート向けのバードレーダーの異名で誕生。「DRS6A X-Class」は、今シーズンのゲームの行方を大きく変える新兵器となる!

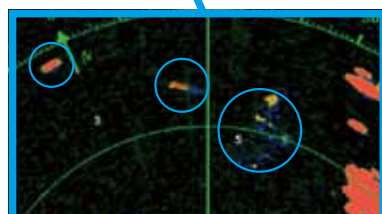
text: PerfectBOAT Magazine
photo: FURUNO ELECTRIC
special thanks: FURUNO ELECTRIC
<http://www.furuno.com>



5マイル先の鳥をも捉える探知能力 これで今年の釣果が変わる!

今年3月のボートショーで発表されたマリンレーダー「DRS6A X-Class」は、「バードレーダー」というインパクトある名称でデビューし、スポーツフィッシングユーザーに新たなフィッシングアイテムとして強く受け止められている。だが、実は「DRS6A X-Class」は鳥探知専用機というわけではなく、従来機に比べレーダーセンサー自体の基本性能を格段に高めたもので、優れた鳥探知機能はこの産物。高性能化によって結果的に鳥探知能力を高めることができたのだという。その基本性能とは、

右図で右側に見える細かな点が、5マイル先にいる鳥の群れ。中央左が走行中の船。左は停泊中の船。船舶の動きは直線、鳥の動きは不規則。真エコートレイルを用いると、その反応の違いがよりいっそう判る。



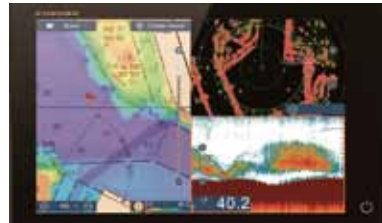
- ①プレジャーボート用レーダーにあえて商船で使用される送信部を採用し、さらにフルノ独自の技術で受信感度を格段に高めたことで、今まで表現しきれなかった遠距離の微弱反応を見事に写し出すことを実現。この技術の採用で、プレジャーボート用では最高峰ともいえる探知能力が可能になった。
- ②さらに、漁船用で培われてきたソフト処理技術で、ノイズを抑え

DRS6A X-Class



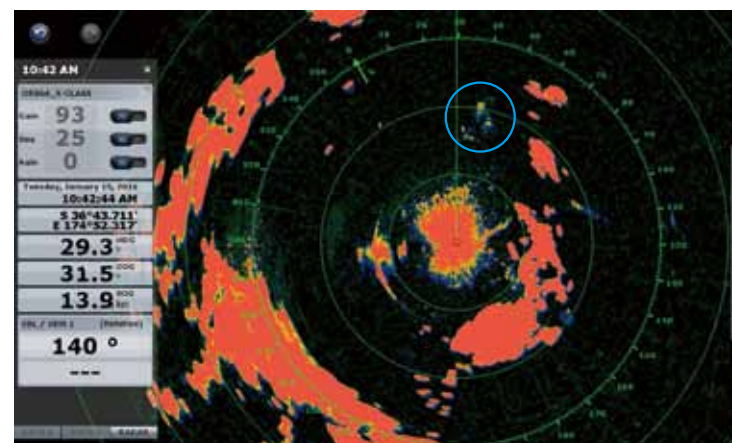
NavNet TZtouch / TZtouch2 専用モデル

NavNet TZtouch2



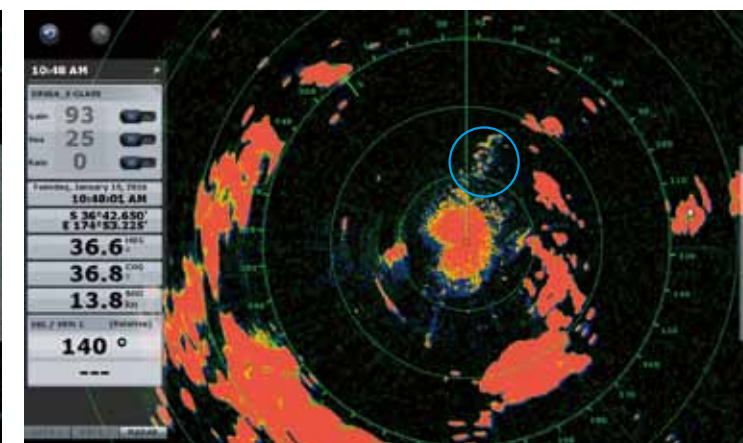
「DRS6A X-Class」のバードレーダー機能を活かすには「NavNet TZtouch」か「NavNet TZtouch2」が必要。さまざまな機器を繋げられる「NavNet Connect」、そして降雨時などいかなる条件でもクリアな映像表現を実現する信号処理技術「UHDデジタルレーダー」。これを機に、NavNet TZtouchシリーズに全換装するのも良いのでは。

■ 4マイル先の鳥の群れ



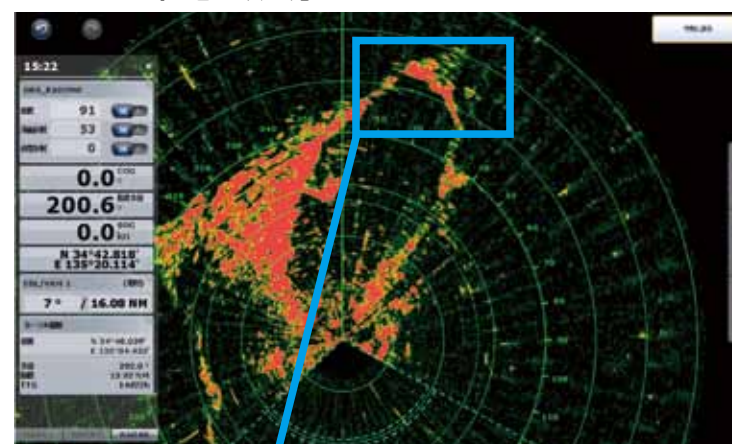
左ページの場所から移動し4マイルまで近付くと、鳥の反応が分離され、くっきりとした表示に。他のエコーとの違いも明確で、間違えることはない。

■ 3マイル先の鳥の群れ

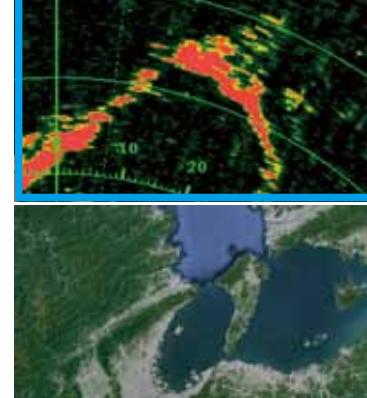


3マイルまで近付けば、真エコートレイルにより、単体の鳥の動きが確認できる。慣れてくればダイブしている様子もはっきり掴めるという。

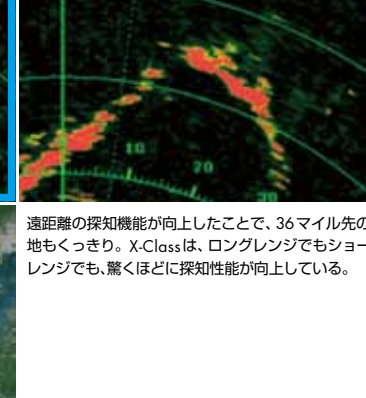
■ X-Class 陸地の映り方



36マイル先の陸地

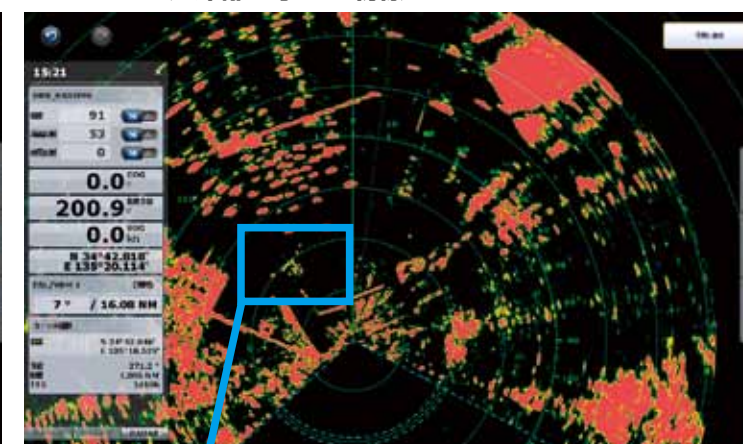


従来のレーダー画像

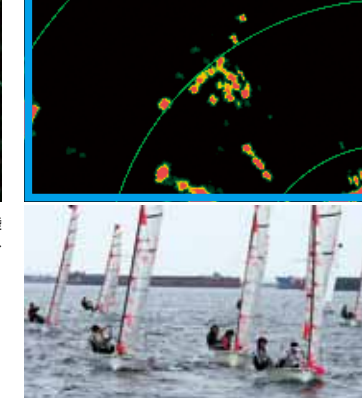


遠距離の探知機能が向上したことで、36マイル先の陸地もくっきり。X-Classは、ロングレンジでもショートレンジでも、驚くほどに探知性能が向上している。

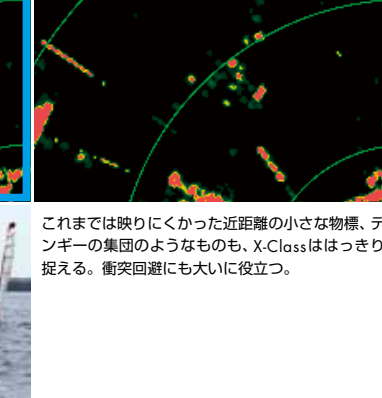
■ X-Class 近距離の小さな物標



ディンギー集団のレーダーエコー



従来のレーダー画像



これまでは映りにくかった近距離の小さな物標、ディンギーの集団のようなものも、X-Classははっきりと捉える。衝突回避にも大いに役立つ。

て微弱反応を浮き上がらせるエコーアベレージを採用し、今まで探知できなかった5~6マイル先の鳥群れの探知に成功。

③これにプラスして、「移動体のみの動き」を尾引きで表現する、「真エコートレイル」を活用すれば鳥の動きが手に取るようにわかり、捕食中かどうか判断しやすくなる、というもの。

1986年(昭和61年)にフルノが、世界で初めて、漁船向け海鳥探知レーダー「海鳥探知機」という名称で開発・販売して以来絶えず進化を遂げてきたそのレーダー性能は、現在では約20マイル先の鳥群れも探知するという。もちろん、プレジャーボート向けのレーダーとは送信周波数や出力が異なるので圧倒的な差は当然だが、ここで活用されているソフト処理技術には長年の様々な

ノウハウが含まれており、そのノウハウの一部が今回、プレジャーボート向けに採用されたというわけだ。

プレジャーボート向けレーダーとしては最高峰の性能を有しているハイエンドレーダー「DRS6A X-Class」。濃霧やスコール時、夜間航行時のサポートや、他船や僚船の位置確認といったレーダーの基本的な使い方に加え、目視できない距離の海鳥の群れの探知や、鳥の密集度やその状態まで把握することを可能にした。マリーナを出て右か左か、勘で決める時代はもう終わりだ。これからは「バードレーダー」の異名を持つ「DRS6A X-Class」が、行くべき方向を伝えてくれる。PB.

■古野電気 船用機器事業部国内営業部
TEL: 0798-63-1085 <http://www.furuno.com>